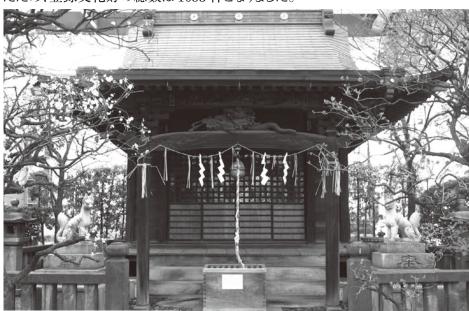
◆平成25年度新指定文化財◆

繁栄稲荷神社本殿 寛文元年在銘 庚申塔

江東区教育委員会は、文化財保護審議会(会長 中村ひろ子:元神奈川大学 教授)の答申を受け、新たに2件を指定、4件を登録しました。また、2件を解除し たため、登録文化財の総数は1053件となりました。



ずれも江戸時代のものです。 今回、指定文化財になった2件は、 繁栄稲

されています。 と、意外とあちこちに当時のものが残 がちですが、実は区内を見回してみる ちました。はるか遠い昔のように思 代が終わって、はや150年近くが経 身分制

その保存に取り組んでいます。

財保護推進協力員)の協力を得ながら、

江戸時代って意外と身近?

農工商)の社会であったという点で、 現代とは大きく異なります。そんな時 や大名などの武士がいて、 時代劇でおなじみの江戸時代。

江東区地域振興部 文化観光課文化財係 〒135-8383

http://www.city.koto. ℓg.jp/

- ○平成25年度新指定·登録文化財紹介
- ○『深川区史』の成立と歴史編纂事業
- ○江東区芭蕉記念館特別展

語りかける文人の書画

- 時空を超えた美と遊への招待・ 漫画で辿る『野ざらし紀行』
- 風景漫画家沖山潤と芭蕉との語らい-
- ○江東のお富士さん
 - 江東区域の富士信仰―(後編)
- ○古写真の中の江東(ミニ) 「旧大石家住宅友の会」入会のご案内 新刊案内

ご一読いただき、歴史を身近に感じて 解説は2・3頁にあります。 きたいものです。 ら二度と戻りません。そのため、 少なくありません。数百年もの長い間、 でも多くの方に、関心を持っていただ 人々の生活の中で生みだされた文化財 に詳細に紹介しておりますので、 昨年度、指定・登録された文化財 その過程で失われていく文化財も 地域の歴史そのもので、失われた 町の姿が大きく変わりつつ 件ごと ぜひ

そのため、 内のいたるところに残されています。 屋外にあり、寺社の境内を中心に、 推定され、庚申塔はその銘から寛文 荷神社本殿は幕末の頃に建てられたと にものぼりますが、そのうち半分ほどが 代に残されたのですが、これは何世代 ます。現在、区内の文化財は1053件 にもわたって、人々が大切に守り伝え 化遺産を文化財として指定・登録して てきた努力の賜ものといえます。 江東区教育委員会では、このような文 (1661) に造られたことがわ 後世に伝えることが重要です。 いずれも長い年月を経て、 所有者、 区民の方々(文化 現

指定文化財

繁栄稲荷神社本殿にえいいなりじんじゃほんでん【有形文化財(建造物)】

はできるかぎり旧材を使用したと思わ 昭和36年、大丸に返還されて旧地に近 ます。その後、明治44年(1911) 南面していた社殿は東面しました。 も関東大震災、空襲の難を逃れました。 われ、現本殿は19世紀中期の安政4年 を祈る神社として、宝暦7年(1757) います。平成元年に境内地が整備され い現在地に戻りました。移築に際して に大丸と親交が深かった根津嘉一郎邸 に木場の大丸別邸内に創建されたとい (1857) 頃に建造されたと推定され (港区青山)に移築されたため、幸運に 繁栄稲荷神社は、 全体的に当初の部材をよく残して 木場2-18-12 呉服商大丸の繁盛 繁栄稲荷神社

構造形式は、桁行3間、梁間2間、 木造平屋建、入母屋造の銅板葺屋根で、 向拝を設け、正面及び両側面に切目縁、 修方に下屋を有しています。向拝は装 後方に下屋を有しています。向拝は装 後方に下屋を有しています。向拝は装 をいた細かな絵様が施されており、ま た海老虹梁や手挟にも同様の絵様があ ります。水引虹梁の上の中備には龍と 人の彫物が付けられています。曲線的

> 棚が張り出しています。 板敷、竿縁天井、背面の下屋部分に神ね、桁と手挟を受けています。室内は物は直線的な形状で、三斗に五斗を重

東宗和市神社本殿は、震災・戦災に 見舞われた江東区にあって、移築や移 創建当初の位置近くに残され、近世商 家の信仰の一端を示すとともに、近代 家の信仰の一端を示すとともに、近代 家の信仰の一端を示すとともに、近代 家の信仰の一端を示すとともに、近代 家の信仰の一端を示すとともに、近代 るなど、江東区においては希有な近世 るなど、江東区においては希有な近世 るなど、江東区においては希有な近世 るなど、江東区においてはのように、 を演要素が向拝に集中し、その細部も は、近代 での実業家の親交を物語る点でも貴重で す。当建築は、神社本殿の通例のように、 を演要素が向拝に集中し、その細部も るなど、江東区においては希有な近世 るなど、江東区においてはがす。



内は **庚申塔 寛文元年在銘**を重 【有形民俗文化財】

拡大していった信仰です。 道・民間信仰などを取り入れて全国に時代からみられた徹夜行事に仏教・神のとは、平安のは、のののでは、平安ののでは、ののでは、平安のでは、ののでは、ののでは、ののでは、ののでは、

東申塔には様々な形がありますが、本東申塔は板碑型といわれる17世紀中りされ、三猿が主尊として正面に浮き彫りされ、三猿が主尊として正面に浮き彫ら、本東申塔は灰手足は菱形ではなく垂中信仰のなかでも初期のものであることがうかがえます。刻銘から寛文元年(1661)1月に造立されたことがわかります。これは江東区内で2番目わかります。これは江東区内で2番目に古い年代の庚申塔です。

右衛門新田の鎮守であり、現在志演神 をとは十間川の東岸にあり、寛永元 年(1624)菅原長寛が稲荷の神を 年(1624)菅原長寛が稲荷の神を 行民の志を演ぶる所殊勝なり」といわ で、将軍綱吉が鷹狩に来た際に で、将軍綱吉が鷹狩に来た際に で、、社号を志演稲荷に改め、元禄8年 れ、社号を志演稲荷に改め、元禄8年 れ、社号を志演稲荷に改め、元禄8年 れ、社号を志演稲荷に改め、元禄8年 れ、社号を志演稲荷に改め、現在志演神 といわ

信仰に関連した貴重な文化財です。 南門新田との関係が推測され、地域の す。また、志演神社を鎮守とする八右 す。また、志演神社を鎮守とする八右 のもので、型式からみても区内に現存



登録文化財

石造燈籠 大正6年在銘 一対【有形文化財(建造物)】

天祖神社の創立された年代は不詳で亀戸3―38―35 天祖神社

すが、 創建とされています。江戸時代には砂 原神明宮と称し、 社伝によると推古天皇の時代の 柳島村の総鎮守でし

社務所と社殿をつなぐ渡り廊下が境内 は現在地に移されました。 の西側に竣工され、それに伴って燈籠 前に建てられていました。 建てられていますが、以前は社殿前方 に玉垣が巡らされており、その玉垣の 本石造燈籠は、 参道の鳥居の手前に 昭和48年、

中 区域のひとつです。 ており、 竿石の上半分に年月日と「柳島新田 柳島村には「新田」という小名が 下半分に世話人の氏名が刻まれ 「柳島新田」は天祖神社の氏子 一対の左右ともに同じ刻銘で

部が東日本大震災によって倒壊し、 かって左側の燈籠は、 在は各部位が分離しています。 の信仰を示す文化財です。 この燈籠は、地域の人々の天祖神社 基礎部分より上 なお、 向 現

石造鳥居

にあります。建立は銘文より明治45年

本石造鳥居は天祖神社境内の招魂社

亀戸3-38-35

天祖神社

(1912) であることがわかります。



石造燈籠 明治33年在銘

本石造燈籠は、天祖神社境内の招魂 亀戸3-38-35 天祖神社

関係は不明です。

の名が確認できますが、

天祖神社との

賀出張所」:「三井物産株式会社石炭係 銘文には奉納した企業「三井物産横須 それ以前の設置場所は不明です。また が建てられた昭和30年3月頃ですが、 現在の場所へ設置されたのは、招魂社

ます。 亀戸二丁目の住民とみられます。 ちの氏名が確認されます。世話人は現 33年(1900)であることがわかり 社前にあります。 刻銘には建立当時の神職 髙橋信盛をは 招魂社が建てられた昭和30年3月頃で それ以前の設置場所は不明です。 現在の場所に設置されたのは、 燈籠の建立に協力した世話人た 建立は銘文から明治

繋がりを示す文化財です。 天祖神社への信仰、 この石造燈籠は、 神社と地域住民の 明治時代における



明治45年在銘

石造燈籠

明治33年在銘 帯製作 【無形文化財 (工芸技術)】

杉浦正雄氏

古屋帯・付帯などを仕立てる技術です。 帯製作は、和裁のうち丸帯・袋帯・名 保持者 杉浦正雄

帯・名古屋帯など伝統的なものから戦 感覚を取り入れた帯を製作していま を普及させるため、洋服地や外国産 ます。近年では手軽に締められる付帯 後の付帯まで帯仕立全般を手がけてい 仕立の技術を習得しました。丸帯・袋 舞袴製作」保持者)のもとで修業し帯 から父武雄氏 人がおり、東京帯専門裁縫組合を結成 杉浦正雄氏 和紙などを利用して、 東京では帯を専門とする職 (区登録無形文化財 (昭和17年生) 現代的な は、 18 歳 仕

> 賞を受けています。また、(社) ます。平成17年に江東区優秀技能者表 していますが、 その技術は貴重なものとなって 同20年には東京都優秀技能者知事 江東区では正雄氏のみ 日本

業の信仰、天祖神社と企業の繋がりを

この石造鳥居は明治時代における企

示唆する文化財です。



ます。

指導員として後進の指導にあたってい

和裁士会東京支部に所属し、

職業訓練

【有形文化財 (彫刻)

厨子入木造阿弥陀如来坐像

無形文化財(工芸技術) 三好1—6 13 成等院

ガラス工 (江戸切子)

保持者 須田 富雄

木工(彫刻 保持者 渡邉美壽雄

石造燈籠 一対 元禄14年・文政12年在銘

東砂6-13-4 天祖神社

深川区史』の成立と歴史編纂事業

料が焼失するなど、苦心惨憺たるものでした。の編纂過程は、大正12年(1923)の関東大震災により古文書等の史まとめた『深川区史』全二巻(大正15年)を刊行しました。しかし、そ大正10年(1921)に深川区史編纂会を組織し、旧深川区域の歴史を大正10年(1921)に深川区史編纂会を組織し、旧深川区域の歴史を統合して誕生しました。このうち、江東区の西側にあたる旧深川区では、江東区は、昭和22年(1947)3月15日に、旧深川・城東の2区が

編纂をめぐる環境が如何に形成されたのか紹介したいと思います。 小稿では、この『深川区史』編纂事業の経過を通して、江東区の歴史

『深川区史』編纂事業の開始

電深川区史』は、大正10年(1921) 3月、当時の深川区会議員・川上賢三 3月、当時の深川区会議員・川上賢三 にが深川区史編纂の必要性を説き、つ 氏が深川区史編纂を区会に提出し、 編纂に関する建議案を区会に提出し、 は、一致で可決したことに始まりま す。これにより、川上氏を区史編纂委 員長として深川区役所内に「深川区史 編纂会」を組織し、史料収集などに従 事しました。

いたのでしょうか。同氏はなぜ、区史編纂の必要性を説

川区史 上巻』序によれば、大正時代の郷土の起立発達を明かにし、将来の施設に資する処あらしむるが目的であった。」で始まる『深出の郷土の起立発達を明かにし、将来のが他にあった。」で始まる『深山上氏が記した「郷土史の研究は其

様子がわかります。
(1912~1926)に入り、社会たがなくなった、と危機感を抱いているたがなくあわただしいため、

だものと思われます。
う気概をもって、区史編纂事業に臨んある自分に与えられた責務であるとい用上氏は、深川生まれ、深川育ちで

「深川史料展覧会」の開催

『深川区史』編纂事業をめぐる環境で別治小学校/現在の江東区立明治小区明治小学校/現在の江東区立明治小区明治小学校/現在の江東区立明治小区明治小学校/現在の江東区立明治小区明治小学校/があります。

されました。出品者85名、展示史料業を広く紹介することを目的として催る史料を収集するとともに区史編纂事この展覧会は、散逸した深川に関す

田ので、20頁)であったといえます。 とんどを網羅したと思えるほどの大イベントだったようです。結果的に入場者数は約3万人を超え、盛況を博しました。そして、この「深川史料展覧会」で収集された史料は、漸次、記録として謄写、模写、撮影等され、区史編纂のための作業が進められました(『深川区史 上巻』に「出品目録」が掲載されています)。この「深川史料展覧会」を契機として、深川区内は勿論、区外からも多くの史料が寄せられたことは、まさに「深川として空前且絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに「深川として空前目絶後のは、まさに、であったといえます。

関東大震災の発生

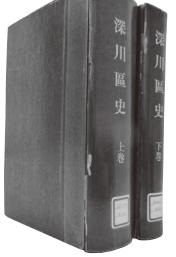
上も話し合われましたが、ここで 大震災が関東地方を襲います。関東大震災です。この震災によって、多くの 震災です。この震災によって、多くの 震災です。この震災によって、多くの 震災です。この震災によって、多くの 大震災が関東地方を襲います。関東大 とその大半が失われました。震災の打 を受け、編纂委員の間では事業の中 とるの大半が失われました。

区史編纂を中止すれば「深川の過区史編纂を中止すれば「深川の過区史編纂を中止すれば「深川の過区史編纂を中止すれば「深川の過い地にならない」(同、14頁)と、が継続されました。そして、大正が継続されました。そした。

おわりに

深川に関する史料の多くは、関東大た。歴史的な史料に対する保存の必要た。歴史的な史料に対する保存の必要性は、往々にして災害の発生とともに再認識されることがあります。今から教9年前、深川区史編纂委員たちは関約の年前、深川区史』の刊行、すなわがらも、『深川区史』の刊行、すなわがらも、『深川区史』の刊行、すなわち深川の歴史をまとめることにこだわりました。そうした先人の営みの上に、江東区の歴史編纂事業は進められてきたといえるでしょう。

(元深川江戸資料館 藤井明広)



江東区芭蕉記念館特別展

語りかける式人の言画 時空を超えた美と遊への招待!

『野ざらし紀行』330年記念企画展

慢画で辿る『野ざらし紀行』 風景漫画家府山間と芭蕉との語らい

4月24日(木)~6月22日(日)まで 漫画展は12月14日(日)まで ――――

四季の彩りをもとに「美と遊」に興じ 夏は両国の花火、秋は川面に船を浮か 代の中期に四季折々、「春は墨堤の桜 通してユーモアにあふれた作品が残さ 水墨や彩色を駆使した作品や、 ていたのです。文人墨客の書画には、 戸一番の行楽地となりました。庶民は、 べての月見、 東京を象徴する隅田川は、江戸時 冬は雪景色」とされ、江 人事を

> 仕立てる過程を示す興味深い内容で 所が朱書きされるなど、作者が作品を

きを軸装仕立てにしたもので、

訂正箇

ですが、これを完成させるための下書 冒頭を賛し、荒えびす図を描いたもの 図下書き幅」は、『徒然草』142段

て感じ取ってみようとするものです。 気ない遊び心を文人たちの作品を通し 画は、 今回の特別展「語りかける文人の書 日本人の持つ色彩美と、 さり

「荒えびす 書き幅

> び心にあふれた作品です。 鏡を通して見ると、「筏さす人もゆか 染めた短冊で、月波は文字を反転させ、 す。また、大坂の俳人小西月波が筆を しき嵯峨の奥 月波」と判読でき、遊

主な作品を紹介します。 四条派の祖、 松村月溪の

松村月溪荒えびす図下

等 万延元

小西月波筆「筏さす」句反転短冊

紀行』」です。今年は、芭蕉の貞享元年

1684)の『野ざらし紀行』の旅立

おいかま

渡辺崋山の描いた『目黒詣』(折本一冊) 偽書も多いが、 字抜きに印刷し、採録された資料には 古今の俳人の書画・短冊を模刻し、 重されていたことが解ります。また、 (1860) に刊行されたもので、 俳 優遺墨 (折本一 当時この類のものが珍 # は、 白

> 品です。 図」は、光弘の遊び心を知る楽しい作 を友人で俳人の石倉翠葉をモチーフと 描いた「天橋立」と、同じく「天橋立 描かれた白梅が立体的に見える趣向作 のは現在3点あり、その内の一冊です。 色が施されたもので、これに類するも した「丹後天の橋立翠葉またのぞきの 椿椿山の子、華谷の「深山白梅図」は 尾崎紅葉門で洋画家の中沢弘光が 文政12年(1829)の作で、

> > 「野ざらしを」句漫画

沖山 す。

氏は、

して

いま

作品を展示

リジナル

画賛、 ます。 図など、興味深い作品40点が並んでい 山の老松鳩の図、 このほかにも白隠慧鶴の蛤蜊観音自 仙厓義梵の寿老人自画賛、 渡辺小華の藤花野雉 椿椿

取り組むようになり、

繊細な描写の中

にほのぼととした漫画の持つユーモア

ら下町を題材にした独特の風景漫画に 賞を受賞されています。平成14年頃 後、「月光通りのマスター」で『週刊

として活躍

デザイナー

ラフィック ゲームのグ

ビジネスジャンプ』(集英社)の新人



白隠慧鶴蛤蜊観音自画賛

とつのライフワークとしています。 蕉の句や紀行文を精力的に風景漫画と ジャンルを開拓しました。 示しました。ここ数年、 のタッチで50作品を制作し、 を加味した「風景漫画」という新し して制作するなど、芭蕉ワールドをひ ほそ道』旅立ち320年の記念の年 さらに沖山氏は、平成21年の『おく 『おくのほそ道』に載る50句を独特 沖山氏は、 当館で展

岜

をご覧ください。

この機会に、是非2つのテーマ展

| 芭蕉記念館 ***** 問合せ】 * * *

203 (3631) 1448

くさず」までの43句をもとに描いたオ 川に帰庵する「夏衣いまだ虱をとりつ を心に風のしむ身かな」から、

翌年深

ざらし紀行』に載る芭蕉の「野ざらし 記念して、風景漫画家の沖山潤氏が『野 ちから330年にあたります。これを

富

|江東区域の富士信仰||-



富士への祈り―江東区域の富士講―

たのが、浅間神社のはじまりとされま 噴火を鎮めるために「浅間大神」を祀っ す。中世の富士山は密教の山とされ、 れ、紀元前27年に垂仁天皇が富士山 富士山は古代から霊峰として信仰さ たちの修行の場になり

よって、 され、中興の祖とされる食行身禄に者・角行藤仏(長谷川角行)が開祖と 互扶助などの道徳、 に富士山で断食の末に入定(死去)し りました。身禄は享保18年 (1733) 富士講は戦国~江戸時代初期の行 江戸の庶民の間で急速に広ま 弟子や子孫が男女平等や相 世直しの思想を広

るまでになりました。 枝分かれしながら発展し、 め、各地に同行中・講中などの信 (富士講)が成立しました。 富士講は各村・町ごとに 講中八万人」といわれ 「江戸

賀2丁目)の町人・田中屋清六(清 としては、深川今川町 江東区域で活動していた富士講 (現在の佐

> 山正行) 講社の先達・世話人の名が刻まれてい 代先達の名と、大島・亀戸・向島の各 之碑」は、大正9年(1920)に丸 山吉講の枝講として砂村(砂町)やまきち 文化・文政期 (1804~30) に 島(墨田区)などで活動した丸不二講、 半に加藤忠治が創始し亀戸・大島や向 るために建てられた石碑で、背面に歴 不二講の初代先達・加藤忠治を顕彰す 大島の宝塔寺にある「大先達加藤忠治 を表す)などが挙げられます。 立した山吉丸す御水講(「す」は砂村 が創始した山玉講、 18世紀後

「月拝み」と富士登山 富士講の活動は、 月ごとに行われる (富士詣) に大



①大先達加藤忠治之碑(大島・宝塔寺)

動を続けています。 現在は砂町の山吉丸す御水講のみが活 動していましたが、終戦前後に消滅し、 江東区内の富士講は昭和初期まで活

小さな富士山―江東区域の富士塚

地に造られました。富士塚に登れば富 富士塚は富士山を模した小山のこと 富士講の信仰のシンボルとして各

残されています。

富士講の講員が用いた白装束 から数名を代参させました。 の御師と契約して、講員の中 富士登山(富士詣)では特定 を行ったりしました。また き上げ」という儀式を催し、 る先達が講員を集めて「お焚 では、富士登山の熟練者であ きく分けられます。 「月拝み_ (行衣) お札を配ったり祈祷やお祓い の背面には「三国第

屋で金剛杖に焼印を捺してもらう慣例 ご神体を表すとされ、 富士登山」の焼印があります。八角は 剛杖は八角の木製杖で、「昭和十一年 捺されているのが見えます(②)。 や中腹、富士山周辺にある神社の印 ほか、襟や袖、背中などに、富士山 年(1936)の参拝記念の印がある になっていました。 富士山の8つの峰、 山」の文字と三猿が描かれ、 丸い頭は富士山 合目ごとや山 昭 和 11 金 0 が 頂

眺めるという遊興的な要素も、

特に流行し、山頂から本物の富士山を

たことから、体が弱い人や老人・子ど

富士登山を禁じられた女性の間

士登山と同じ御利益が得られるとされ

早稲田) 庶民を引きつけたようです。 1780) に高田 江戸で最古の富士塚は、 の水稲荷神社境内に造られた (現在の新宿区西 安永9

戸富士(本所富士)という3つの富士 富士塚(移転・再築されたものを含 高田富士(現在の富士塚は再築された もの)で、東京23区内に現在68ヶ所の .東区内には深川富士・砂村富士・亀 (9ヶ所) (12ヶ所)で、次いで多いのが足立 が残されています。最多は江戸川 富士信仰に関わる文化財が と新宿区 (9ヶ所)です。



②富士講の行衣と金剛杖

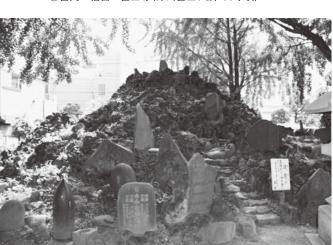
①深川富士 和 40 年 尊山 囲に配置されています。 年 れました。 周囲にあった多くの石造物も廃棄さ の規模は高さ10メートル、 伊勢原市)の石尊権現を勧請 深川富士は、享保7~8年(1722 深川富士に関わる8点の石造物が周 ましたが、富士講が衰退した後、 代に入っても同行者の活動が見られ として知られていました(③)。 メートルあったとされ、江戸の名所 士塚として再建されました。この塚 ~23) 頃に相模国大山 (2002) に再建されたもので、 (宮口山) としたのがはじまり (1965) に取り壊され、 文政3年 現在の富士塚は平成14 富岡八幡宮の境内にある 1 8 2 0 (神奈川県 直 径 18)に富 近

②砂村富士 富賀岡八幡宮 (砂村 元

の社殿の裏手にあり、

天保4年

③富岡八幡宮の富士塚(深川富士、 昭和30年頃



④富賀岡八幡宮の富士塚(砂村富士)



⑤亀戸浅間神社の社殿と富士塚(亀戸富士、昭和30年頃)

噴火で誕生した側火山)を模した黒 が活動しており、毎年7月1日には 吉丸す御水講」(都内唯一の山吉講) れています(④)。現在も砂町の「山 ボクの塊など、元の形状がよく保た 富士塚の山開きが行われます。

大正6年

有

た山で、その後水害で形が崩れたた

に黒ボク 昭和36年

ています。当初は富士山の土を盛っ

以前に築かれたとされ

③亀戸富士 (本所富士) 武尊の妃)の笄を祀った笄塚の上に、紫の祭とというがい。 こうがい 関にある富士塚は、弟橘媛(日本 が江戸の富士信仰の拠点として古く 半には神社の存在が確認できること 社殿がありました(⑤)。17世紀後 建てたのがはじまりとされ、平成り の富士神社と並んで、亀戸浅間神社 から、駒込(文京区)・浅草 大永7年(1527)に浅間神社を から存在したことがわかります。 (1997) まで亀戸浅間神社の 常橋媛 (台東区

永山

(宝永4年 [1707]

の宝永

道があります。また、

胎内(洞穴)

や六合目・八合目を表した標石、

宝

岡県小山町)を模したと思われる参 岡県富士宮市)・北側の須走口

静 (静 市

を模した参道と、東側の大宮口

(西側) の吉田口 (山梨県富士吉田:

れました。富士塚の高さは約4メー

直径は約13メートルで、

正面

に30メートル南側の現在地に移築さ

(富士山の溶岩)で固め、 昭和8年(1933)

祝橘媛(日本とたないない。 亀戸浅間公 おり、 トル、 年(1916) に整備され、 す 平成9年に南側に移転した際にも、 年(1930~34)に社殿を造営し、 志から資金を集めて大正7年に修築し 10月の暴風雨で被害を受けたため、 登れるよう整備されています。 ました。現在の富士塚は高さ約2メー 造物を移動させるなどの改修が行われ たとされています。また、昭和5~9 現在、 笄塚が富士塚にされた時期は不 明治35年(1902)と大正5 直径約20メートルあり、

誰でも

石

されています。かつてはここから見え れてみてはいかがでしょうか。 たであろう富士山に思いをはせなが の富士塚は誰でも登れるようになって ることは難しくなっていますが、 各地の富士塚 石造物などの貴重な文化財も残 東京23区内から富士山を眺 (お富士さん) 多く を訪

【参考文献】赤澤春彦・今野慶信「江 士さんを楽しむためのガイドブッ 区の文化財 文化財4 化財研究紀要』第14号)、『江東区の 東区の富士塚について」(『江東区文 ク』(中川船番所資料館、2013年 区教育委員会)、 の文化財7 中川船番所資料館 門前仲町界隈』、『江東区 8 亀戸Ⅱ・大島』、 砂町」 『もっと江東のお富 (以上**、** 鈴木将典 『江東 江東

古写真の中の江東(ミニ



亀 戸 駅

ます。 心の一つ「錦糸町・亀戸副都心」のセンター 現在の亀戸駅周辺は、東京都が策定した副都 教育委員会刊 域を代表する主要駅となっています。 景はガードおよびプラットホームぐらいです。 古写真が撮られた時期に比べ、残っている風 囲に高層の商業ビルが建ち並んでいるため、 見え、上り線に電車 アエリアであり、 亀戸 現在、 、駅の駅舎と高架駅のプラットホーム 駅舎は駅ビルに組み込まれ、 『江東のいまむかし』より) 亀戸駅は江東区の城東地 (総武線) が止まってい (江東区 周 が

たもので、

本巻には文化元年~7年

(1804~10) までの記録が収録さ

のです。関心をお持ちの方は、

ぜひご

人足寄場に関わる動向を題材としたも 逆井の渡し」の橋梁化をめぐる動向。

明和6年

(1 7 6 9)

0

読ください。

5巻を刊行しました。

(深川2

正覚寺所蔵)

のうち、

第

他の3本は、

深川猟師町の再編問題、

本資料は、堂守の鹿塩家が書きつづっ

東都三十三間堂旧記

五

新刊案内

区指定文化財の『東都三十三間堂旧

その成果を報告と論文で紹介していま

海洋大学構内に多数残されているた と考えられる石垣石が、越中島の東京

数度にわたり調査を行いました。

※年代は昭和30年頃です。

となどが記されています。

名の勧金などで建設費用が賄われたこ

大風雨で倒壊し、 れています。

文化2年

1805

に再建されるまでの幕府への請願活動

再建が認められ幕府の下賜金や大

旧大石家住宅友の会

入会のご案内

申込用紙をご用意しておりますのでお 区役所4階文化財係と旧大石家住宅に 歴史・文化財に関心をお持ちの方は、 動が可能な方、 開日(土曜日・日曜日・休日)以外は 申込みください。不明な点は文化観光 していますので、 活動を行っています。 が、清掃や囲炉裏の火入れなどの保存 ボランティアの「旧大石家住宅友の会」 仙台堀川公園内にある旧大石家住宅 江東区内最古の民家建築です。公 古民家の保存や地域の 区内在住で平日の活 会員を随時募集

> でお問い合わせください 課文化財係 (3647 - 9819 ま

りください。 展示していますので、 節句にちなんで五月人形と鯉のぼりを から5月6日 旧大石家住宅では、 (火·休) 気軽にお立ち寄 4 月 26 日 まで、 端午の 土



旧大石家住宅友の会活動の様子

区登録史跡)

越中島砲台は、

幕府砲台の一つで、

三十三间堂田記 业

【規格】B5 判、103 頁 【価格】1,000 円

報

を内容とする雑誌で、5本を掲載しま した。はじめの2本は、 江東区文化財研究紀要 江東区の歴史・文化財の研究や報告 の調査成果です。 越中島砲台跡 18 号

江東区教育委員会 【規格】B5 判、84 頁 【価格】700 円

江東区文化財研究紀要

江東区指定無形文化財 されました。ここに慎んでご冥福を お祈り申し上げます ·木工(彫刻)」保持者渡邉美壽雄氏 去る平成25年12月5日にご逝去 計 (工芸技術)

お詫びと訂正

ます。 となります。 がも ありました。2頁3段目の宝暦 あった三十三間堂」の年号に誤り 前号 (1764)は、宝暦4年(1754) (264号) 掲載の お詫びして訂正いたし 深川 14

とともに、幕末期の江戸防衛を目的と 現在お台場として賑わう品川台場など

して築造されました。

その砲台の土台